

## 実践記録（小5・国語）

### 1 ねらい

根拠となる資料をタブレット端末で見せながら、自分の意見を相手に伝えることができるようにする。

### 2 手立て

討論の立論・反論の際に根拠となる資料を事前に収集させるときに、ロイロノート・スクール（以後ロイロノート）に保存させておく。それらの資料の中から必要なものを見せながら、討論させる。

### 3 実践の様子

国語科「考えを広げるために、立場を決めて話し合おう」は、ミニディベートを、肯定側、否定側、聞き役の3者で行う単元である。討論のテーマ案は子どもたちから募り、テーマを「人工林は必要か」に決め、子どもたちをほぼ同数になるようにA、B、Cの3チームに分けた。それぞれのチーム内で、人工林があることによるメリット、デメリットとその根拠となる資料を調べさせ、その資料をロイロノートに保存させた。その後、肯定側、否定側に立ったときにどのような立論（主張）を行うか考えさせ、その上で必要な資料をロイロノート内で選別させた【資料1】。また、肯定側、否定側の立場に立ったときに、相手からどのような質問がされるか予想させ、それに対する反論を考えさせ資料をロイロノート内で用意させた。



【資料1】ロイロノートで用意した資料の様子

ディベートの前には相手を論破することが目的ではない、ということを伝えた。

ディベートでは、初めは資料を相手に見えるようにタブレットを向けることを忘れてしまうなどの姿があったが、次第に慣れた様子だった。肯定派の立論、否定派の立論の後、お互いに反対質問をするときには、資料を見せながら反論をすることができたが、予想していない質問があったときには、その場で反論を考えて資料も提示せずに述べなければならない場面もあった。1回目の討論が終わったところで、「予想していなかった質問があったり、自分の想定よりも上手な反論を聞くことができたりした人もいると思うので、その場合は、2回目以降の討論に生かしてもよい」ということを全体で確認した。2回目は、討論が終わった児童の中には、次の討論に向けて資料について情報交換をロイロノートで行う姿が見られた。3回目の討論が終わった後で、人工林について、今の考えを書かせたところ、初めは不要だと考えたが今は必要だという考えに変わった【資料2】のような意見や、初めはいいことばかりだと考えていたが問題点も多いことに気付いた【資料3】のような記述が見られた。

NHKの動画を見て、人工林はデメリットが沢山あるからあまり良いものではないと思ったけれど、調べてみると人工林は、二酸化炭素を吸収して酸素を出してくれるとても良い働きをしていた事が分かりました。なので、人工林は必要だと思います。

【資料2】考えが変わった子どもの記述

最初は、人工林なんか植えられるぐらいだから、良いことしかないのかなと思ったけど、このディベートを通して悪いこともたくさんあるんだなと思った。放置されていたらたくさん悪いことが起きるんだなと思った。でも良いこともあった。悪いところについては、きちんと対策されているみたいだった。放置はされていても、人工林を見捨てたわけじゃないんだなと思った。でも整備はちゃんとしてほしいと思った。けど僕は、人工林はあったほうが良いと思った。

【資料3】問題点を加えた終わりの考え

### 4 成果と課題

- ロイロノートを活用したことで、資料を用いた討論をスムーズに行うことができ、子どもたちが自分の考えを広げることができた。
- 1回目、2回目、3回目の討論の間に、資料の選別をし直す時間を設けたり、必要と感じた資料を探したりする時間を設けるべきであった。